

【競技規定・演技規定・スコアシート一部改正】

日本チアダンス協会は、国の定める新しい生活様式である「密接や密集を回避する」方針のもと、別途定めた「練習再開ガイドライン」に基づき、2020年開催全日本チアダンス選手権大会予選大会の競技規定、演技規定及びスコアシートの一部を改正する。本改正内容を先に発表した競技規定、各部門演技規定の追加事項として良く確認し、演技を構成すること。

【競技規定に関するお問い合わせ】

- ・ 競技規定に関するお問い合わせは、部門編成、代表者名、返信連絡先を明記の上、下記メールアドレス宛に連絡すること
- ・ 詳細な実施内容に関する質問は、動きを録画したDVDや映像データを協会事務局宛に郵送、または下記メールアドレス宛に連絡すること

一般社団法人日本チアダンス協会事務局宛

[MAIL : Info@jcda.jp](mailto:Info@jcda.jp)

送付先：107-0052

東京都港区赤坂4-7-7 H&K赤坂レジデンス302

2020年7月

一般社団法人日本チアダンス協会



1 接触について（全部門全編成）

- 選手同士が接触する以下の実施を禁止する
 - ①ラインダンス
 - ②リフト
 - ③パートナーリング
 - ④その他選手同士の手、身体、脚などが直接接触する動作
- 入退場時も同様
- 明らかに選手同士の接触が含まれた場合は、減点(-2点)となるので注意すること

<違反の場合は2点減点>

2 ポン、手具の扱いについて（全部門全編成）

- 大会期間中、ポンや手具は必ず自身のもを使用し、各自で管理すること
- 演技中にポンや手具を受け渡す、またはパスすることは禁止
- ポン、手具の扱いの違反による減点は無いが必ず遵守すること

3 構成に関して（全部門全編成）

演技構成にフォーメーションの移動を含めたステージングの複雑さは必須としない

- 演技は選手と選手の間隔を2m程度空けて構成すること
- 演技フロアのラインオーバーは問わないが、演技フロアの左右それぞれに+5m、前後それぞれに+1mを目安にすること
- 演技の途中で使用するポン、手具を演技フロア外に準備することも可能
- 構成の違反による減点は無いが、練習環境に合わせ無理のない構成をすること

4 発声に関して（全部門全編成）

- 演技中の発声(カウントをかける、チーム名をコールするなど)は禁止
- 入退場時も同様
- 発声の違反による減点は無いが必ず遵守すること

5 ラインダンスに関して（Cheer Dance部門全編成）

チアダンス部門の演技構成上の「ラインダンス」を「キック」に変更し、列（ライン）の構成は必須としない

キックの完成度、チームの均一性、同調性を評価する

《変更後のラインダンスルール》

- 「キック」はチームが提出する演技構成表を元に「キック」カテゴリーとして評価する
- キックは選手同士が接触のない状態で行うこと
- 列（ライン）を活かした構成は必須としないが、選手全員のキックが見えるよう工夫すること（縦1列など全員のキックが正確に評価できない構成は不可）
- キックパートは16カウント以上で構成すること（カウント不足による減点は無し）
- 16カウントは「キック」カテゴリー内で全員同時の1本目のハイキックからカウントする
- 全員が同時に4本以上のハイキックを行うこと（キックの本数不足は-2点の減点）
- 4本のハイキックは自由だが、全員同時に同種類のハイキックを行った場合のみ、1本にカウントされる
- 同じ種類のハイキックであれば、左右の上げる脚の違いは自由（例：前列右脚のサイドキック、後列左脚のサイドキックは可）
- 別の種類のキックを同時に上げても1本にはみなされないので注意すること（例：前列フロントキック、後列ファンキック）
- パッセやレッグホールド、フロア正面に対して後向き、または後方のキックを構成上取り入れても良いが、4本に含まれないので注意すること

スコアシート 変更点 （全部門全編成共通）

1 スコアシートの変更について

- 競技規定の変更に伴いスコアシートの配点を変更し、総合得点90点を満点とする
- 新スコアシートは2020年8月末に公開予定

《変更後》

- CHOREOGRAPHY（振付）の配点30点の内、「Routine Staging（ルーティーンステージング）/Visual Effects（視覚的効果）10点」項目を削除する